

# 語り継ぐ70年前の記憶

今年、戦後70年の節目の年にあたります。のどかで風光明媚なこの国東市内にも戦争の爪痕はしっかりと残っています。当時を知る方たちに、70年前の記憶を語っていただきました。

## あかつき 曙部隊との交流

上野さんと小島さんは、小学校高等科（現在の中学校に相当）の同級生です。太平洋戦争が終盤を迎えた昭和20年7月、2人は高等科2年生（当時13歳）でした。

国東町史によると、その年の5月頃、山口県柳井市から曙部隊と呼ばれる船舶部隊の一部が国東に駐留したそうです。これは、「九州に敵上陸」に備え本州と四国とを継ぐ兵員の輸送・補充を目的に、国東の海岸を、その要路に充てようとするためのものでした。

### ① 富来郵便局裏の富来川の河川敷

今では目にするのができませんが、この場所は、他の同級生と一緒に上陸用舟艇を隠す壕を掘ったところです。

この河川敷からサンコーポラスまでの間に、幅4m、長さ

12mの壕を8つ掘った記憶があるそうです。

小島さんは、壕に入った上陸用舟艇を隠すために、兵隊さんと一緒に山に木を切りに行ったそうです。

また、上野さんは、7月31日にこの河川敷で、戦闘機による



▶右側の岸に上陸用舟艇を隠す壕を掘った



●小島 安治さん (83歳・国東町富来浦)

●上野 忠雄さん (83歳・国東町富来)

機銃掃射があったことを覚えているとのことでした。そのとき、河川敷にある大きなハマボウの木に隠れていた同級生10名ぐらいが、撃たれて慌てて川を泳いで逃げたのを対岸のタコ壺壕（個人用の防空壕）の中からすすべなく見えていたそうです。

▶子ども達が隠れたハマボウ

### ② 松原区公民館先

この場所は、7月28日にアメリカのグラマン機が東からやっ



て来て50キロ爆弾を落した場所だそう。2人は、その先の森の中で作業をしていた仲間と一緒にタコ壺壕に隠れ、兵隊さんに教えられたとおりに、地面に伏せて耳と目と鼻を隠しました。そこは、砂地だったので、みんな砂まみれになってしまい、誰が誰なのか見分けがつかなくなっていました。仲間と隠れていた森の近くの長屋の中にいた3人の子どもと4人の大人は亡くなってしまいました。

小島さんは「爆弾の落ちてくる音がダメだと思ったが、爆音が聞こえたので、まだ自分は生きているんだな」と思ったそうです。



▲畑の先にある森の中のタコ壺壕に2人は隠れた

### ③ 富来こども園の前の川

ここは、2発目の爆弾が落ちたところです。

川の中に、50キロ爆弾が落ちて、今の富来こども園の左側にあったあん摩屋さんにいたお客さんが、爆風に飛ばされて2人も亡くなったそうです。光永寺



### ④ 富来橋のたもと

この場所は、川の水をせき止めるためにダム型の水門を設けた杭がありました。この水門は、いざというときに開けると一挙に舟艇が河口まで突っ走る



の隣に田原旅館があつて、そこに曙部隊の人たちがいたそうです。